

保存用資料

長持ちする家のつくり方

私は住宅屋ですので、住宅のことしかご紹介できません。今回は長持ちする家のつくり方についてポイントだけ書きます。

通常住宅は30年以上の長いローンを組んで購入します。国土交通省が以前調べたデータでは日本の住宅は平均寿命は26年という結果が出ています。これでは、毎世代が大きな借金を抱えることとなります。アメリカでも44年の平均寿命だということになぜ、日本の住宅はこんなに寿命が短いのでしょうか？

木造住宅の大敵は壁の中に入る水です。壁の中に水が入ると家は腐ってしまいます。まず、雨水の進入を防ぐために、雨漏れしにくい単純な屋根と、壁に雨がかかりにくくするために深い庇を出すことです。また、壁の中の結露を防ぐために壁の気密を高くして、断熱材を隙間無く入れることです。(壁の中の結露を防ぐ方法はいろいろありますので、代表例だけを書きました)

次にメンテナンス性を上げることです。特に重要なのは床下の点検。床下はシロアリや腐りが発生しやすい部署です。通気がよければシロアリが発生しないというのは迷信です。床下は人が入れるようにしておくことが肝心です。

しかし、上記のようなことをキチットやってきた住宅でさえ、取り壊されているのが現実です。もっと違う理由があるのではないのでしょうか？

実は家を長持ちさせるためには「間取り」が大切なのです。家族の変化、時代の変化に対応できる間取り、日本人の文化にあった間取り。これが疎かにされてきたから、毎世代で壊さざるを得なかったのです。

家の性能や地震に対する強さばかりが強調されていますが、もしあなたが家を新築するとき「そういえば間取りが大切だといっていたな」ということを思い出していただけたら幸いです。

尚、丸井建築事務所ではそのことを中心に書いた本「長持ちする家のつくり方」を無料でプレゼントしています。ご興味のある方は 058-253-6588まで、「アゴラ通信を読んで」といってお電話ください。プレゼントさせていただきます。

(井手)

編集後記

環境に優しく体に健康的な自転車が、いま静かなブームになっています。当事務所も市内の移動には自転車をつかっています。渋滞も無い、普段は通らない道を選んで地域の町並みを観察しています。

(名和)